

THIS IS THE  
GOSPEL

03

追求

THIS IS THE  
GOSPEL

**01: 召命**

**02: 關係**

**03: 追求**

**04: 旅路**

## この手引書について

第三部『追求』では、イエスが重要視した三つの関係が、弟子の成長にどう影響するのかを説明していきます。イエスは、父なる神、教会、この世との正しい関係に生きました。三つの関係において、それぞれに適切な姿勢と距離を保って生きました。そこで、キリスト信仰がこれら一つひとつの関係の中でどう働くのかを、これから4週間かけて学んでいきます。

神への愛を深めるとき、あなたはキリストを追い求めることを学びます。神への愛が、父なる神との交わりをひたすら求めさせます。そしてキリストを追い求めるとき、主はあなたに信仰の兄弟姉妹とつながることの大切さを示します。主はご自分の弟子たちを、教会との正しい関係に導きます。また、キリストを追い求めるとき、世に仕える意欲と福音を委ねる意欲がかき立てられます。この意欲は、あなたが神の栄光を現わすやり方で世と関わるようにうながします。こうやって徐々に、あなたは関係という視点から世界を見るようになっていくのです。

『追求』は、4週間のデボーションガイドです。週ごとに六日間のデボーションが含まれています。デボーションができない日があったとしても、遅れを取り戻す日が一日あるので心配はいりません。たとえ、終わるのに一か月以上かかったとしても大丈夫。これは、あなたを助けるための手引書であって、あなたを縛るための律法ではありません。単純に神との時間を楽しんでください。神に集中してください。ノートにメモを取るのもよいでしょう。そうやって神との時間を過ごしていくうちに、神がデボーションの時間を関係の成長へと変えてくれるはずです。

これからキリストを追い求めるあなたに、神の祝福がありますように！



## 目次

### 第1週：神を愛する

1日目：一つだけできるとしたら . . . . .	6
2日目：愛はシンプルに . . . . .	9
3日目：神はあなたを待っています . . . . .	11
4日目：神は愛すべき方？ . . . . .	14
5日目：本当に愛しているなら . . . . .	16
6日目：どうして家で礼拝できないの？ . . . . .	19

### 第2週：信仰の仲間とつながる

1日目：励ましの場所 . . . . .	24
2日目：人間的要素 . . . . .	27
3日目：自己中心的な生き方に戦いを挑む . . . . .	30
4日目：ジムで学んだこと . . . . .	33
5日目：コミュニティは、ライフスタイルの選択 . . . . .	36
6日目：互いに仕え合う . . . . .	39

### 第3週：世に仕える

1日目：人々があなたの良い行いを見て . . . . .	44
2日目：プランがうまく行くと . . . . .	47
3日目：憧れの人に似る . . . . .	50
4日目：高ぶりに立ち向かう . . . . .	53
5日目：こんな充実感、初めて . . . . .	56
6日目：キリストを伝える場を築く . . . . .	59

### 第4週：福音を委ねる

1日目：委ねるって、なに？ . . . . .	64
2日目：福音を委ねる . . . . .	67
3日目：人間関係のルール . . . . .	70
4日目：福音を委ねる簡単な方法 . . . . .	73
5日目：福音の前進 . . . . .	76
6日目：ダッシュで何をする？ . . . . .	79





## 1日目

### 一つだけできるとしたら

休暇旅行の2週間前、一郎は最終プランを練っていました。それを6歳の息子と一緒にやりたいと思い、「ビーチに着いたら、何がやりたい？」と尋ねてみました。すると、息子の口から、アイデアが次から次へと出てきてしまいました。もちろん、予算には限りがあります。そこで一郎は、前の質問の言い方を変えて「ビーチで何か一つだけできるとしたら、何がしたい？」と質問してみました。息子は少し考えて「パパと一緒に何かしたい。一緒にできるなら、何でもいい」と答えたのです。

このストーリーは、クリスチャン人生に似ています。一見、私たちの学びや活動はたくさんあるように見えます。祈り、聖書の学び、教会に通うこと、奉仕や活動のために捧げること、人に仕えること、福音を宣べ伝えることなど、できる事はまだまだあります。キリスト教は、奉仕や活動に不足はありません。ですが、キリスト教の中心は、キリストと共にいるように招かれること（召し・召命）なのです。

イエスが最初に弟子に召したときのことを、マルコは次のように書いています。「イエスは十二人を任命し、彼らを使徒と呼ばれた。それは、彼らをご自分のそばに置くため、また彼らを遣わして宣教させ[る]・・・ためであった」（マルコ3章14節）。弟子たちは、イエスのそばにいたために召されました。そうやってそばにいる者たちを、イエスは宣教・奉仕へと遣わしたのです。重要視されているのは、主との親しい関係・交わりです。なので、クリスチャン人生で何か一つだけできるとしたら、キリストのそばにいて一緒に時間を過ごすべきなのです。

神を愛することに集中しながら、心に留めていてほしいことがあります。それは、あなたがどこで・何を・どのようにしたとしても、だれと一緒にいるかが常に一番大切だということです。

毎日どうやってイエスのそばにいるか、いくつか具体的なアイデアや方法をあげてください。

---

---

---

毎日キリストと時間を過ごすことの妨げになるものは何でしょうか？いくつか挙げてください。

---

---

---

祈り・「イエスさま、あなたを知りたいです。あなたのそばにいたこと、あなたと一緒にいることが、私の人生の最優先事項です。そのためにできる事とその妨げになっている事を、あなたは示してくれました。変えるべき事を変える勇気を、私に与えてください。私が毎日あなたのそばにいらるように、助けてください。イエスさまの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・申命記6章4-5節、詩篇1篇、27篇4-6節、ルカの福音書10章38-42節、ヨハネの福音書15章1-5節、17章3節



## 2日目

### 愛はシンプルに

最近、空に「Marry Me (僕と結婚してください)」と描いてプロポーズした男性の話を聞きました。ただ残念なことに、パイロットが「Me」のMを逆さにしたので、空には「Marry We」と描かれてしまったのです。男性が思い描いたようなロマンチックなプロポーズの言葉にはなりませんでしたが、それでも言いたい事は十分に交際相手に伝わりました。

あなたもこの男性のように、神を愛していることを証明したくて、何か大々的な事をしようと思ったことはありませんか？ 神を愛するということは、奉仕や捧げ物の大きさではなく、神のそばにいて、そして神に従うことです。

イエスは弟子たちに「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます」(ヨハネ14章23節)と言いました。

イエスによると、私たちの神への愛には、ある特徴的な要素があります。それは、神との親しい関係から生まれる従順です。それなのに、多くのクリスチャンは「神への愛を証明するために従おう」と考えます。これは、パフォーマンス重視の宗教と自己依存に基づいた考えです。ところが、イエスは「わたしを愛せば、あなたは従う」と言うのです。

私たちは、イエスを愛するために従うではありません。イエスを愛せば、その結果、従順になるのです。

ヨハネの手紙第一4章19節を読んでください。私たちが神を愛す根拠は何ですか？

---

---

---

---

私たちが先に神を愛し始めるものではありません。私たちは、私たちが愛してくれる神の愛に、応答しているだけです。そのことに気づかせてくれるのが、ヨハネの手紙第一4章19節です。神はあなたを愛してくださっています！

神は、もっと深くて親しい関係に私たちを招いています。私たちは、それぞれ一人ひとりが神を追い求めるように創造されました。主の御前に静かに座って「今日はどうやってあなたを求めたらいいですか？」と尋ねてください。そして、神の言われる事を書き留め、それを実践してください。

祈り・「主イエスよ、あなたを知りたいです。どうか私を憐れんで、あなたを愛することの妨げになっているものを、私のうちから取り除いてください。あなたの恵みで、私を助けてくださいますように。そして、手放すべきものを捨て去る勇気も与えてください。主イエスの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・マタイの福音書12章41-44節、ルカの福音書10章38-42節、ヨハネの手紙第一2章3-6節



## 3日目

### 神はあなたを待っています

「さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた」—マルコ1章35節

あまり有名ではありませんが、質素な部屋の古いテーブルに座っているイエスの姿を描いた絵画があります。テーブルには二つの椅子があって、その一つにイエスは座っています。オイルランプが置かれたテーブルの上にあるのは、開かれた聖書と日記帳。背景には、小さな窓が開いていて、丘の上から朝日が昇っています。とても穏やかで安らかな風景です。この絵の下部には「神はあなたを待っています」と書かれています。

これは、私の神との時間に大きなインパクトをもたらした絵画です。初めて目にしたとき（私は、幾度となく、イエスを独りでテーブルに座らせてきた）と思いました。忙しかったし、疲れてたし、生活に追われていたし……。言い訳は尽きません。でも、どんな言い訳を並べても、この絵が私の口を封じます。キリストが静かに座って、私に来るのを忍耐よく待っている姿が目に見えぬのです。

神との時間を（難しい）と感じている人もいるでしょう。何をすればいいの？ どうすればいいの？ 何て言えばいいの？ もし一日飛ばしちゃったら、どうなるの？ そんな疑問を抱くのでしょうか。神との時間の秘訣は、関係・交わりに重点を置くことです。神と時間を過ごすのは、神を知るためです。人生の究極的なゴールは、神を知ることです。そのために、神と一緒に時間を過ごすという毎日の目標を掲（かか）げているのです。

マルコの福音書1章35節を見ると、キリストが何よりもまず、父なる神との親しい交わりを優先していたことがわかります。私たちは、そのイエスのライフスタイルを見習わなくてはなりません。

毎日の神との時間を確立するために、マルコの福音書1章35節のイエスの姿は、どうあなたの意欲をかき立ててくれますか？

---

---

---

---

この聖句は、イエスが特定の場所で特定の時間に特定の目的で、父なる神との時間を持っていたことを示しています。あなたには、神と時間を過ごすための特定の習慣やパターンがありますか？もし無ければ、日常生活のどこでどう神との時間を持つか、ここで少し時間を取って計画を立ててください。

---

---

---

---

祈り・「主なるイエスさま、あなたを知りたいです。あなたとの時間を過ごすことが、あなたを知る唯一の方法です。それがよく分かりました。あなたと時間を過ごすときに、私が関係・交わりに重点を置くように助けてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・歴代誌第二16章9節、哀歌3章21-25節、詩篇33篇18-22節、46篇1-11節、ヘブル人への手紙10章19-22節、黙示録3章20節



## 4日目

### 神は愛すべき方？

どうやって人は恋に落ちるのでしょうか？ その答えは、答える人によって少しずつ違うのかもしれませんが。ならば、質問を変えてみます。（あの人よりこの人の方が、もっと魅力的な、愛すべき人だ）と思う、人格的・性格的特徴はあるでしょうか？ これが事の核心です。「私の理想は、傲慢(ごうまん)で、不誠実で、後ろ向きで、会うと気分が萎える人だ」と言う人はいません。私たちはみんな、最終的に自分が憧れる人柄や欲する性格の人に惹かれるのです。

では、なぜ神を愛すべきなのでしょう？ 人生の目的は、イエス・キリストとの愛の関係を求めて、その関係を深めることです。そこには「神は、私たちが愛すべき、魅力的な方」という前提があります。神を「愛されるべき魅力的な方」にするご性質や人格的特徴とは、何なのでしょう？

ここで、神のご性質を簡単に説明している詩篇103篇を読んでみましょう。この詩篇には二十二節ありますが、そこから分かる神のご性質は、以下のとおりです。

寛容な方(3, 9, 12節)  
いやす方(3節)  
あがなう方(4節)  
愛情深い方(4, 8, 11, 17節)  
憐れみ深い方(4, 8, 13節)  
満たす方(5節)  
義なる方(6, 17節)  
賛美に値する方(20-22節)

ご自分を啓示する方(7節)  
恵み豊かな方(8節)  
怒るのに遅い方(8節)  
慈悲深い方(10節)  
思いやりの方(14節)  
とこしえの方(17節)  
すべてを治める方(19節)

神に対する愛が神に関する知識よりも大きくなることはありません。だからこそ、聖書が啓示する神のご性質にしっかり根ざすように、神に関する知識を学ぶべきなのです。

あなたが「賛美に値する・望ましい」と思う神のご性質が、ほかにありますか？ 少し時間を取って考えて、ここに書き出してください。

---

---

---

---

デボーションのヒント・聖書を読むときには、神がご自身の性質を聖書のことばを通して明らかにしてくださるよう、祈ってください。神のご性質を知れば知るほど、自然に神を愛していくようになるでしょう。

祈り・「主イエスよ、あなたを知りたいです。あなたが今日、私に啓示してくださるご性質・ご人格に気づかせてください。そうして、私をもっとあなたを知ることができますように。イエスさまの御名によって祈ります。」

その他の聖書箇所・出エジプト記15章1-18節、申命記7章7-9節、詩篇113篇、145篇



## 5日目

### 本当に愛しているなら

「もし私を本当に愛しているなら、〇〇してくれるはず」と言われて、罪悪感から何かをやる羽目になった、なんて経験はありませんか？もし本当に愛しているなら、ゴミを出してきてくれるはず。もし本当に愛しているなら、この時計を買ってくれるはず……。つまり、本当に愛しているなら「私がして欲しい事をしてくれるはず」と言っているのです。残念なことに、愛が相手を思いどおりに操るための交渉の道具として使われているわけです。

では、ヨハネの福音書14章15節のイエスの言葉は、一体どう解釈すべきなのでしょう？イエスは「もしわたしを愛しているなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです」と言っています。まるで「もし本当に愛しているなら、わたしがして欲しい事をしてくれるはず」と言っているように聞こえます。

でも、イエスの性質・人格を考えれば、人を思いどおりに操ろうとするような方でないことは確かです。それなら、この聖句をどう理解すればよいのでしょうか。

このみことばを、キリストとの関係の「霊的リトマス試験」のようなものと考えてください。あなたの神との歩みに問題があるなら（例・情熱がない、成長を妨げるものがある、繰り返し犯す罪がある）、それは愛に問題があるのです。よく「神に従えば従うほど、ますます神を愛するようになる」と教えられることが多いようですが、実は、イエスはその真逆を教えています。

キリストによると、「神を愛せば愛すほど、ますます神に従うようになる」の

です。したがって、神との関係に支障が出たとき、イエスは「愛に集中しなさい。愛を見なさい。わたしを愛することに戻りなさい。問題は、モチベーションの不足でも、真理の知識の不十分でもない。愛が無いことから生じているのだ」と言われるのです。スタートラインは、従いではなく愛です。私たちが神を愛するとき、神の戒めを守るようになるのです。

愛は従いをもたらしますが、従いが愛をもたらすとは限りません。

あなたの信仰生活で、たびたび起こる問題は何ですか？三つ挙げてください。

---

---

---

---

これらの問題に取り組みなければ、そればかり見て、問題に意識を集中させないことが肝心です。神を愛することに集中することが、問題解決の方法です。イエスを模範にして考えると、どうしたら神との愛の関係を深められるのだと思いますか？（ヒント→ マルコの福音書1章35節、ヨハネの福音書14-15章）

---

---

---

---

祈り・「主なるイエスさま、あなたを知りたいです。敬虔(けいけん)への道をはっきりと示してください、ありがとうございます。問題に焦点を合わせると敗北・挫折につながり、あなたに焦点を合わせると勝利につながることを知りました。あなたをどうやって愛せばよいのか、教えてください。主イエスの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・申命記6章1-25節、30章6節、ヨシュア記22章5節、ローマ人への手紙8章12-17節、ヨハネの手紙第一4章16-21節



## 6日目

### どうして家で礼拝できないの？

確定申告の時期が必ずやって来るように、日曜日の朝も必ずやって来ます。そして確定申告がバタバタして大変なのと同じくらい、日曜日の朝もバタバタして大変です。朝の目覚ましが鳴っても、頭や体が重くて起きられないし、子どもたちは不機嫌だし、シャワーのお湯は出ないし、履いていくつもの靴にペットの犬がお漏らしするし……。朝から何も上手く行きません。おまけに、今週はチャイルドケアで子どもの世話をする当番です。その瞬間、こんな疑問が頭に浮かびます。（どうして日曜日はこんなに大変なんだろう？ どうして家で神を礼拝しちゃいけないんだろう？）

信仰生活を長く続けていると、正直、そんな思いを抱くこともあるでしょう。では、これについて聖書は何と言っているのでしょうか？

使徒の働き2章42-47節で、ルカは次のように書いています。

「彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。すべての人に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議と奇蹟が行われていた。信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。そして、毎日心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった」

下線を引いたのは、信者たちの大まかな習慣を指摘するためです。そして、その下線部はどれも集団・集まりを表す複数形です。つまり、コミュニティを

離れたキリスト教は存在しないということです。どうして、自宅にいながら神を礼拝できないのか？それは、神がクリスチャン人生を、信じる仲間との交わりの中で完全に表されるもの・楽しめるものとしてデザインしたからです。

紀元1世紀の初代教会は、共に学び、共に過ごし、共に食事をしました。また、共に祈り、共に人生を経験し、共に資金を出し合い、共に聖餐式をしました。そして何より共に神を礼拝していました。まったくもって、キリスト教はチームスポーツなのです。

みんなで集まって捧げる礼拝は、神への愛を表現する最も素晴らしい方法の一つです。教会の礼拝でみんなが声を一つにして神を賛美し、心一つにして神を求めるのです。私たちのだれもがみんな、イエス・キリストの教会の一員であり、キリストのからだの一部分です。ゆえに、キリストにある成長とキリストへの情熱も、キリストのからだとの結びつきによってほぼ決まります。

ですから、毎週、教会での礼拝に参加することを、今、決断してください。

紀元1世紀の初代教会にとって、毎日のように宮と家々で集まるのが、なぜ重要だったと思いますか？

---

---

---

---

祈り・「主イエスさま、あなたを知りたいです。あなたのうちに成長することは、信じる者たちとのつながりの中で起こるのだと分かりました。教会であなたを礼拝できる特権を与えてくださったことを、感謝します。クリスチャンの兄弟姉妹と共にあなたを追い求めていけるよう、どうか助けてください。イエスさまの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・コロサイ人への手紙3章12-16節、ヘブル人への手紙10章23-25節





## 1日目

### 励ましの場所

励ますのがとても上手な人がいます。そんな人の傍にいと、気分が良いですよ？あなたの靴やヘアスタイル、賜物や長所など、気づいた事を何でも褒めてくれます。それに、心に響くような言葉を絶妙なタイミングで語る才能の持ち主なので、あなたは元気づけられて、心の中も希望で一杯になります。励ましの言葉は、傷ついた人にとっての心の鎮静剤、言葉の軟膏のようなものです。新約聖書を読んでいると、興味深いことに気が付きます。使徒たちのミニストリーの大半を占めていたのは、信者たちを力づける働き、神との歩みを励ます働きです。励ましと力・強さは、密接に関係しています。以下の例を見てください。

「人々はそれを読んで、その励ましのことばに喜んだ。ユダもシラスも預言者であったので、多くのことばをもって兄弟たちを励まし、力づけた」  
— 使徒の働き15章31-32節

「そして兄弟たちに会い、彼らを励ましてから立ち去った」 — 使徒の働き16章40節

「ですからあなたがたは、現に行(おこな)っているとおり、互いに励まし合い、互いを高め合いなさい」 — テサロニケ人への手紙第一5章11節

「ユストと呼ばれるイエスも・・・私にとって慰めになりました」 — コロサイ人への手紙4章11節

「弟子たちの心を強め、信仰にしっかりととどまるように勧め、『私たちは、神の国に入るために、多くの苦しみを経なければならぬ』と語った」 — 使徒の働き14章22節

「・・・日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされて頑なにならないようにしなさい」 — ヘブル人への手紙3章13節

よく、スモールグループの目的は深い学びだ、と教えられます。確かに、それも目的の一つでしょう。しかし、スモールグループでの兄弟姉妹とのつながりが、本当は情報や知識とはそれほど関係が無く、励ましと力を得ることにより深く関係しているとしたらどうでしょう？私たちは、日々の生活での実行・実践をはるかに上回るほどの聖書の知識を持っています。でも、必要を上回るほどの励ましを受けている人はいないと思います。今、あなたにも落胆している事や悲しい事がありますか？もしあるなら（私は、励ましてくれる人たち、力づけてくれる人たちがいる場所に自分を置いているだろうか？）と自分に尋ねてみてください。

もし現在、あなたがスモールグループに参加していなければ、参加をためらう理由・原因は何でしょう？

---

---

---

---

その理由・原因について、今、祈りのうちに心に思う事を神に打ち明けてください。

クリスチャンの兄弟姉妹と集まることについて、ヘブル人への手紙10章23-25節は何と教えていますか？

---

---

---

---

祈り・「主イエスよ、あなたを知りたいです。励ましと力や強さは、クリスチャンの兄弟姉妹との交わりの中に存在するのだと分かりました。私と同じ信仰を持つ仲間と会うときに、どうか私のうちに、そして、私を通して、あなたがご自身を現わしてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・使徒の働き11章19-24節、コロサイ人への手紙3章15節、テサロニケ人への手紙第一5章11-14節



## 2日目

# 人間的要素

私たちは、よく霊的成長について話をします。また、成長することが重要なことも、成長しないと霊的に衰えることも、よく分かっています。それでも、霊的成長の全体像をしっかりと教わっていない人がたくさんいるはずですよ。

キリスト教書店に行くと、信仰を深めるために書かれた本がたくさん目に入ります。祈りの力について書かれた本や、デボーションのやり方を教える本も並んでいます。霊的賜物の本を読んで、それを熟知することもできるでしょう。ところが、そうした本を読む度に、あなたは「本を読めば成長できる」というメッセージをそれとなく受け取っているのです。でも実際、本を読めば、本当に成長できるのでしょうか。

あなたは今までに、「独学でキリストの弟子になった」という人に何人会ったことがありますか？読書は個人の成長の一部ではありますが、『クリスチャンの独学メソッド』を意図するものではありません。本は真理を解き明かしたり理解を深めたりしてくれますが、人との交流や人間関係の代わりにはなりません。箴言27章17節に「鉄は鉄によって研(と)がれ、人はその友によって研がれる」とあります。私たちの成長のほとんどは、同じ信仰を持つクリスチャンたちとの出会いや交わりを通して起こるのです。それが神のご計画であり、神の御心です。

想像してください。もし、神が霊的成長をうながす器・手段として選んだのが（信じる者たちではなく）キリスト教の本だったとしたら、聖書のことばも次のように書き換えられるはずですよ。

「心は本によって研がれ、本を読む人はその本によって研がれる」 — 新・箴言27章17節

「信者となった人々はみな、それぞれ家で本を読んでいた。(めったに集まらないので)物を共有することはほとんどなく、本やノートを交換することを楽しみ、それぞれの必要に応じて、本のアウトラインを分配していた」 — 新・使徒の働き2章44-45節

「二冊は一冊よりもまざっている。二冊には、もっと情報量があるからだ」 — 新・伝道者の書4章9節

と、こんな感じでしょうか。しかし、真の霊的成長において重要なのは「人間的要素」です。本は良いものですが、人とのつながりに取って代わるものではないからです。

励ましを受けるため、力づけられるためには、クリスチャンの兄弟姉妹とのつながりがとても重要です。今日は、霊的成長の鍵が信仰の仲間たちとの交わりにあることを学びました。現在、あなたが霊的成長のために定期的に会っている人はだれですか？

---

---

---

---

あなたの霊的成長が信仰の兄弟姉妹との交わりで起こるのなら、それはつまり、兄弟姉妹たちの霊的成長もまた、あなたとの交わりで起こることです。あなたが神から学んだ事で、クリスチャンの兄弟姉妹たちの益になると思う事を二つ挙げてください。(例・祈り、信頼、忍耐、人に対する優しさなど)

---

---

---

---

祈り・「主なるイエス、あなたを知りたいです。私の成長の大部分は、ほかのクリスチャンたちとのつながりを通して起こるのだと分かりました。私が、今の私の生活と歩みに適したグループとつながれるように、どうか助けてください。あなたが私の成長のすべてを気にかけてくださることを感謝します。あなたを愛しています。イエスさまの御名により祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・ローマ人への手紙12章1-13節、エペソ人への手紙4章1-16節、テサロニケ人への手紙第一3章11-13節



## 3日目

# 自己中心的な生き方に戦いを挑む

「・・・へりくだって、互いに人を自分より優れたものと思いなさい。それぞれ、自分のことだけでなく、ほかの人のことも顧(かえり)みなさい」— ピリピ人への手紙2章3-4節

世界は、あなたを中心に回っているわけではありません。認めたくなくても、ほとんどの人は（この世は一つの壮大なストーリーで、その主人公は私だ）と思って生きています。だから、出来事をすべて「自分にとって問題だ」「自分の足掛かりになる」「自分には学びになる」と考えるのです。もちろん、「自分が世界の中心だ」などと決して口にはしないでしょ。でも、そう思っているのは、以下のようなことを考えている時点でバレバレなのです。

- 「神さま、取引は失敗でした。僕にこんな事ばかり起こるのを、どうしてあなたは許しておられるのですか？」
- 「金が足りない。神は、私に何かを学ばせようとしておられるのだろうか」
- 「また遅くまで仕事をする羽目になった。主よ、なぜ、私ばかり残業させられなくちゃいけないんですか？」

ところが、人生の出来事の究極的目的が、実は私たちとは全く無関係なのだとしたらどうでしょう？ほかの誰かのためにならないから、取引がとん挫したとしたら？ほかの誰かの祈りに答えるために、神があなたの資金から一部を取り除いたとしたら？ほかの誰かが夫婦関係を修復できるように、そのために早く帰宅できるように、神があなたの残業を許されたのだとしたら？私た

ちの周りでは、確かに壮大なストーリーが展開されています。でも「すべては私たちに関する出来事」というわけではありません。

自分のために人生を生きるのか、それとも、人のために人生を生きるのか。あなたがキリストを信じる者ならば、この問いに答えを出すべき時が必ずやって来ます。すべてのクリスチャンにやって来るのです。それは、自分のいのちを救おうとする者はそれを失い、いのちを失う者はそれを見つけるのだとイエスが教えているからです（マタイ16章25節）。

他人への関心は、信仰の仲間とつながることがもたらす恵みの一つです。生まれつき、他人の必要に関心を持っているという人はごく少数です。人類の墮落により、私たちの生まれながらのデフォルト設定は、どうしようもないほど自己中心的です。だからこそ、キリストの似姿になる過程で、自分を捨てることと人に仕えることが不可欠です（マタイ16章24-27節）。聖書的コミュニティの中で、同じ信仰を持つ人たちと一緒に時間を過ごして交われれば、この両方に取り組みます。

「世界は私たちを中心に回っていない」と認めるのが難しいのは、なぜだと思いますか？

---

---

---

---

---

お互いに助け合い、仕え合い、励まし合い、力づけ合うという目的で参加するとしたら、スモールグループに対する見方がどう変わりますか？

---

---

---

---

---

祈り・「主なるイエスさま、あなたを知りたいです。私の内に、ストーリーの中心になりたいという気持ちや欲があることを告白します。私の内側をあなたに変えてもらわなければなりません。私は、できる限りを尽くして、あなたに従います。私の人々の祝福になれるように、どうか、あなたが私を通して生きてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・ガラテヤ人への手紙6章1-2節、ピリピ人への手紙2章1-11節、コロサイ人への手紙3章12-17節



## 4日目

### ジムで学んだこと

私がウエイト・トレーニングの世界に足を踏み入れたのは、小学六年生の頃です。そこはパワーと虚勢が入り混じる、興味深い世界でした。子どもながらに（筋トレの世界はサブカルチャーなんだな）とすぐに理解しました。ウエイトルームには、さまざまなタイプの人に通っていました。考え方も振る舞いも違う人たちがいて、普通の人を着ないような服を身に付けている人もいました。指の無い手袋や袖の無いシャツ、すごく露出度の高いタイトなショートパンツなどを目にしました。そして何より、そこは自己顕示欲に欠かない場所だったのです。

当然、身体の小さい男性ほど大きな唸（うな）り声を上げ、一番リフティングが弱い人ほど一番おしゃべりでした。たった5分でもウエイトルームの様子を見ていれば、だれが「本物のリフティング経験者」で、だれが「単に経験者だと思われたいだけの人」なのか分かります。

現に、筋トレの上級者ほど普通の服を着ていますし、きちんとペース配分してトレーニングしています。重いウエイトを使うときには、スポッターに補助を頼んでいます。でも、筋トレ経験の乏しい人ほど、ウエイトトレーニング・ウェアや専門用具で身を固めています。また、ウエイトの重さを変える度に全力を使い切り、スポッターの補助を受けることを弱さの象徴だと考えます。カッコいいトレーニング用のグローブやタンクトップやショートパンツを着た男性が、自分でウエイトを持ち上げれなくなるのが良くあるのです。私もそんな男性の胸から、何度ウエイトをどかしてあげたか分かりません。（カッコ良い姿だとは決して言えません。）信じられないかもしれませんが

が、そんなジムから次のような霊的真理を学ぶことができます。

真理1・経験は、賢明な決断に表れる。

真理2・経験は、助けを求めることを恐れない。

ソロモンはこう言います。「二人は一人よりもまさっている。二人の労苦には、良い報いがあるからだ。どちらかが倒れるときには、一人がその仲間を起こす。倒れても起こしてくれる者のいないひとりぼっちの人はかわいそうだ」（伝道者の書4章9-10節）。

神と共に生きる経験を積んだ、成熟したクリスチャンは、つねに賢明な決断をします。そして、信仰の兄弟姉妹との交わりに、意図的に自分を置いています。それは「二人は一人よりもまさっている」と知っているからです。それに、やたらと自らの力量や能力を誇示する必要を感じないので、自分に与えられた機会を有効に用いて仕えています（例・日曜礼拝、特別礼拝、スモールグループの集まり、毎日の神との時間、奉仕の機会・立場、アカウントビリティ・グループなど）。たとえ、そうした場所で教えられる内容がすでに熟知している事だとしても、コミュニティとアカウントビリティの必要性和重要性をしっかりと理解しているからです。倒れたときに自分を起こしてくれる者を持っていることが賢明だと、ちゃんと知っているからです。（訳注・アカウントビリティとは、キリストにあって聖書に忠実にしたがって神に仕える決心をしたクリスチャンが、その決意に沿った信仰生活を送れるように、互いに励まし合い、吟味し合う仲間を持つこと。）

歳の若いクリスチャンや成長していないクリスチャンは、奉仕や活動を敬虔さと誤解してしまうかもしれません。つまり、正しい用具を持っていても、その使い方を知らないのです。そして「時間がない」「必要ない」「急がなくてもいい」と自分に言い聞かせ、定期的な成長の機会を持つことを拒（こ）びます。それでいて、ほかのクリスチャンと顔を合わせるときには、自己顕示欲との闘いが始まるので霊的なふりをします。そのため、どうしても無理をしてしまいます。プライドが邪魔して助けを求めません。こうして、つまづいたり倒れたりしたときに、自分をひとりぼっちにしてしまうのです。

クリスチャン人生は、短距離走ではなくマラソンです。だれも独りでは走れません。つねに賢い決断をして生きることが、たまに急に熱が入る霊性にまされるのです。

ローマ人への手紙12章10節、テトスへの手紙2章3-6節、ヘブル人への手紙11章1節～12章2節を読んで、気づいた事をメモしてください。

---

---

---

---

祈り・「主イエスよ、あなたを知りたいです。長い間あなたを知っているクリスチャンの信仰生活を注意して見ることも、あなたを知るためにできる事なのだと知りました。私は、成熟したクリスチャンたちの中に自分を置くことを決意します。イエスの御名によって祈ります。アーメン」



## 5日目

# コミュニティは、ライフスタイルの選択

この4日間で学んだのは、信仰の兄弟姉妹とつながるコミュニティという安全な場所が、励ましと力を与え、成長できる環境を整え、自己中心的な生き方を困難にし、賢明な決断・判断をうながすということでした。今日は、信仰の仲間とつながることが、喜びのライフスタイルであることについて学んでいきます。

使徒の働き2章42-47節で、ルカは次のように述べています。

「彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。すべての人に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議とするしが行われていた。信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。そして、毎日心一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださいました」

なんと素晴らしいクリスチャン・グループでしょう！ 私たちは、ライフスタイルという言葉をよく耳にします。そして、信仰生活から公衆衛生の広告に至るまで、あらゆるものが私たちに賢明な判断・決断を求めてきます。その理由は「どんなライフスタイルを選ぶか」で「どんな人生を送るか」が決まるからです。

ライフスタイルの選択は、人生の流れや方向を変えてしまうものです。たとえば、大麻や覚せい剤などの違法薬物を摂取する選択、借金をする選択、大学に進学する選択は、あなたの人生の流れや行路を大きく変える決断です。イ

エスに従う選択、ゴルフに没頭する選択、企業を立ち上げる選択もまた、あなたの人生の流れ・行路を変えるものです。つまり、ライフスタイルの選択は、良い決断にも悪い決断にもなり得るわけです。すべてのライフスタイルの選択が、同等の影響力を持っているわけではありません。それでも、その選択が毎日の生き方を変えてしまうことは間違いありません。

信仰の仲間と共に生きることも、ライフスタイルの選択です。単なる礼拝参加やバイブルスタディ参加ではなく、もっと深いレベルでつながることを選択するとき、そのクリスチャンの人生の流れ・行路は変わります。初代教会のクリスチャンたちは、共に学び、共に交わり、共に食事をし、共に祈りました。信仰のコミュニティの中で、日常的に神を体験し、神の偉大な力を証(あか)しました。そして、多くの物を互いに共有し、与え合い、分かち合い、助け合っていました。彼らの心は神への賛美に向けられ、毎日、信じる者が起こされるのを目にしていました。なんと素晴らしい光景でしょう！ 結局のところ「コミュニティに身を置く」という選択が、彼らの人生をそう決定づけたのです。

あなたが、彼らと同じレベルのコミュニティ生活を強要されることは決してないでしょう。それでも、願わくば真のコミュニティという概念が、コミュニティにつながる選択を促してしてくれるように願います。

真のコミュニティという考えになにか恐れを感じますか？ あれば、それは書いてください。

---

---

---

---

祈り・「イエスさま、あなたを知りたいです。私のために、つながる場所、属する場所を備えてくださったこと、神の家族を与えてくださったことを、心から感謝します。私のうちにコミュニティに対する恐れがあるなら、乗り越えられるように助けてください。信仰の兄弟姉妹との深い交わりを求めることができるよう、助けてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・使徒の働き4章32-35節、コリント人への手紙第一12章4-27節、エペソ人への手紙4章1-6節



## 6日目

### 互いに仕え合う

イエス・キリストの弟子になるとは、実際にどういうことなのでしょう？弟子と聞くと、たいていの人は生徒（先生から学ぶ人）のことを思い浮かべます。もちろん、学習することも、弟子であることの一部でしょう。でも、弟子は単なる生徒ではありません。キリストの弟子とは、キリストのようになるために、キリストがする事をする者のことです。

この弟子の定義を、弟子訓練に当てはめて考えてみましょう。教会としての私たちのゴールは、弟子をつくることです。したがって、弟子訓練を考えるときには、イエスのように生きる決心をすることについても考える必要があります。イエスはマタイの福音書20章26-28節で、ご自分の生き方に関する重要な真理を語っています。

「あなたがたの間では、そうであってはなりません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、皆に仕える者になりなさい。あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖(あがな)いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのと、同じようにしなさい」

イエスは、人に仕えるために来られたのです！ 私たちクリスチャンは、つついイエスの教えや奇跡や神の子としてのご性質に注目しがちです。しかし、イエスが日々どう生きたのかを理解したければ、イエスの「人に仕える生き方」に注目すべきなのです。

イエスが人に仕える生き方をしたことは、どんな意味を持つのでしょうか？人に仕えることが、私たちの生活の大部分を占めるべきだということです。私たちは、まず地域教会の中で仕えることを学びます。そこで互いに仕え合って、仕える生き方を学びます。そのために、聖霊は信仰者一人ひとりに霊的賜物を与えるのです。コリント人への手紙第一12章7節は「皆の益となるために、一人ひとりに御霊の現れが与えられているのです」と言っています。特に「一人ひとり」という言葉に注目してください。クリスチャン全員が、霊的賜物を持っています。神の御心は、クリスチャンの一人ひとりが、自分の賜物を用いてほかの人に仕えることなのです。

信仰の兄弟姉妹とのつながりを持っていると、キリストのからだ（教会の人々）の必要・ニーズに気づくようになります。必要・ニーズを知ると、神のご計画どおり、互いに賜物を用いる機会を与え合うことにもなります。そして、互いに仕え合うとき、私たちはキリストのような生き方の模範になります。そうしてキリストの生き方の模範となると、初めてキリストの弟子となります。

自分の霊的賜物が何か知っていますか？もし知らないなら、それが何かを見つけないという意欲がありますか？

---

---

---

---

クリスチャンの兄弟姉妹と集(つど)うとき、あなたは仕えるためにその場に集っていますか？それとも、仕えてもらうために集っていますか？

---

---

---

---

あなたは、自分の能力・力・賜物を使って、キリストのからだ（教会）に最大限に仕えていると思いますか？ほかに、どうやって仕えることができますか？もっと仕えることができると思うなら、その思いを牧師に伝えられますか？

---

---

---

---

祈り・「主なるイエスさま、あなたを知りたいです。あなたは、人に仕えるための霊的賜物を私に与えてくださいました。本当に感謝します。私に与えてくださったすべての賜物を、最大限に用いてください。それらの賜物を、ほかの人のために使う勇気をください。イエスの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・ローマ人への手紙12章4-9節、コリント人への手紙第一12章、ペテロの手紙第一4章10-11節





## 1日目

# 人々があなたがたの良い行いを 見ている

「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです」 — マタイの福音書5章16節

キリストを信じたばかりの頃に、私はボブという名前の男の人と出会いました。彼は身長192cmで体重104kgの大男でしたが、彼の仕事にぴったりの体格をしていました。彼の仕事？ジョージア州サバンナ拘置所の教誨(きょうかい)師(受刑者の牧師)です。ボブは、毎週そこでバイブルスタディを教え、祈りを捧げ、殺人・強盗・レイプなどのあらゆる罪を犯した犯罪者たちを支援していました。

その頃、いつも集会にやって来る一人の囚人がいました。でも、彼はキリストを信じる信仰告白をしようとはしませんでした。集会に来て遠くから様子を伺うだけで、そこを立ち去ったあとは、結局また自分勝手な行動を繰り返すだけでした。そうやって数か月が経った頃、その囚人がバイブルスタディで手を挙げて「キリストを救い主と信じた」と宣言したのです。もちろん、参加者全員が驚きました！何があったのかを知りたかったボブは「どうしてクリスチャンになったの？」と、興味津々に尋ねました。すると、その男は「あんたが自分のオフィスを掃除してたからさ。だから、俺はクリスチャンになった」と答えたのです。それだけでは、まださっぱり分かりません。

そこで、さらに質問して彼の話をよく聞いてみると、彼はこう説明しました。権威を持つ者は、いつも目下の者たちを利用する。だから、キリストの権威

下に身を委ねたら、イエスも同じ事をするかもしれないと思って不安だった。でも、ボブが自分のオフィスを自分で掃除しているのを見たとき、その恐れが消えた。幾人もの囚人が、ボブに「オフィスを掃除してあげよ」と申し出ていたのを知っている。なのに、ボブは彼らを利用しようとせずに丁寧に断っていた、と。その男が語ったのは、そんな内容でした。

要するに、この囚人は点と点を結んだわけですが。キリストに従うクリスチャンのボブが、目下(めした)の者に付け込んだりいいように利用したりしないなら、キリストもボブと同じようなお方である可能性が高いのではないかと。こうして神は、床をほうきで掃くというシンプルな行(おこな)いを用いて、ご自分が恵み深い柔和な方であることを彼に確信させたのです。

「人々があなたがたの良い行いを、天におられるあなたがたの父をあがめるような」生き方をするように、イエスは命じています。良い行いは、自分に注目を集めるためにするものではありません。良い行いをするのは、父なる神に栄光をもたらすためです。この聖句が示す原則は、行い・活動の動機や目的に注意することを勧めています。それは、なにを言うかよりもどう生きるかの方が、もっと大きな影響力を持つからです。

人に仕えることは、愛の心から生まれるべきものです。人に仕える機会をもつと作るために、何か変更や調整ができる事はありますか？

---

---

---

---

---

今いる環境・状況の中で、どうしたらもっとキリストの光を輝かせることができると思いますか？

---

---

---

---

---

私たちクリスチャンがどう人に接するかで、その人がキリストに近づくか遠ざかるかが決まります。

祈り・「主なるイエスさま、あなたを知りたいです。そして、ほかの人たちにもあなたを知ってほしいです。私の行動が周りにどう受け止められているのかを、しっかり意識しながら生活できるように、どうか助けてください。私の生き方と人生が、あなたに栄光をもたらすことができますように。イエスさまの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・マタイの福音書5章13-16節、使徒の働き4章32-35節、テサロニケ人への手紙第一2章1-12節、テトスへの手紙3章14節



## 2日目

### プランがうまく行くと

「実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました」 — エペソ人への手紙2章10節

今日のデボーションは、1980年代にアメリカで放送されたテレビドラマのファンにとっては、特に楽しいものになるでしょう。その頃のドラマは、ものすごい人気のものでした。『ナイトライダー』『爆発! デューク』『超音速攻撃ヘリ エアーウルフ』『探偵レミントン・スティール』『私立探偵マグナム』『白バイ野郎ジョン・パンチ』『パトカーアダム30』などは、日本でも放送されました。本当にテレビが面白かった、懐かしい時代です。

私の家族がよく観ていたのは『特攻野郎Aチーム』というドラマです。キャストが素晴らしくて、音楽も最高でした。毎週お決まりのストーリー構成だったので、3話も観れば、だいたい翌週の筋書きも予想できました。

ドラマの展開はいつも同じでした。だれかが困った状況に陥(おちい)り、四人組の「Aチーム」に助けを求め、彼らを雇います。すると、リーダーのハンニバルが作戦を立てて、マードックが大暴れます。フェイスマンは女性たちの気を引きつけて、B.A.はパイプ3本にガムテープと釘1箱さえあれば、そこから十数個の武器を作り出す……。彼らはいつもギリギリの所で作戦を成功させ、最後にハンニバルが葉巻に火をつけて「プランがうまく行くと、良い気分だ。素晴らしいショーだった!」と言うのです。

数年に渡って放送されたドラマシリーズですが、今思い出しても、ハンニバルのプランが成功しなかったことは一度もありません。テレビの中で一番頭の切れる男か、一番ラッキーな男か、そのどちらかでしょう。とにかく、とても面白いドラマだったことは確かです。

エペソ人への手紙2章10節を読むと、プランを立てていたのはハンニバルだけではないことが分かります。聖書には、「私たちが良い行いに歩むように、神があらかじめ備えた」と書いてあります。神は、永遠の過去においてすでに未来を見据え、その先に起こる問題が何か分かっていました。そして、その問題に対処するために、創造的プランを立てました。その神のプランとは何でしょう？それは、神ご自身が神の民を通して働き、その神の民が自分の人生を他の人々を助けるために用いることです。

イエス・キリストに従う私たちが求めているのは、単に聖書の知識を増やすことではありません。神は、世界のあらゆる場所で働いておられます。その神の働きに参加することも、私たちが求めるべきことです。世に仕えるということは、単なる良いアイデアではないのです。これは神の御心、神の作戦なのです！ 私たちは、互いに仕え合って世に仕えるときに、神がデザインした生き方・人生を生きるのです。

あなたは、どうすれば神に用いられ、人に仕えることができると思いますか？（自分の賜物が何か、情熱を感じる奉仕や働きの場がどこかを、考えてみましょう。）

---

---

---

神は私たちが奉仕のために創造し、人に仕えることに人生を捧げるように計画しました。ならば、もし私たちが仕えない人生を選択した場合、どうなりますか？

---

---

---

祈り・「主イエスよ、あなたを知りたいです。あなたが私の人生にプランを持っておられることが分かりました。そしてそのご計画は、私が人に仕えることなのだ分かりました。人に仕える機会を見逃さずに気づけるように、どうか助けてください。そして、仕えるべき時が来たら、仕える勇気を与えてください。主よ、愛しています。イエスの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・創世記1章26-31節、2章4-8節、ペテロの手紙第1章9-12節



## 3日目

### 憧れの人に似る

「あなたがたの間では、そうであってはなりません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、皆に仕える者になりなさい。あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのと、同じようにしなさい」 — マタイの福音書20章26-28節

あなたには、だれかに心酔したという経験はありますか？これは人間を礼拝したとか、その人を神だと思ったとか、そんなことを言っているのではありません。本気で心から「この人みたいになりたい」と強く願ったことがあるか、と尋ねているのです。過去を振り返ってみると、たいていの人は野球選手や俳優やミュージシャンや学校の人気者など、すべてを兼ね備えているように見えた人物を思い浮かべるでしょう。そして（あの人みたいになりたいな）と思ったことがあるはずですよ。

憧れ（あこが）れている人を偶像化すると、その人の真似をして、その人に合わせたくくなります。この心理を利用して利益を上げてきたのが、マーケティングの大手です。靴やサングラス、時計や洋服などの商品を一番手っ取り早く売する方法は、公の場で有名人にその商品を身に付けてもらうことです。憧れからファッションを選ぶことには、それほど害は無いと思うでしょう。でも実際、私たちの「真似したい欲求」はファッションにとどまらないのです。たとえば、飲酒、セックス、態度、過剰な借金、人への接し方などの生き方の選択も、往々にして憧れの人（おおもと）の真似をしたことが大元（おおもと）になっていま

す。

しかし、だれかを模範にすること自体が、必ずしも悪いこととは限りません。合わせたい・真似したいという欲求は、神が私たちの内に置かれたものです。神の意図・願いは、私たちが世のあり方に合わせるのではなく、神のご性質に合わせることなのです（ローマ人への手紙12章2節）。

人にだれかの真似をさせる、または、だれかに合わせるようにさせるのは、そんなに難しいことではありません。問題なのは、キリストこそが本当にかけがえのない、憧れるべきお方だと分かってもらうことです。そして、それをどうやって分かってもらうか、なのです。キリストが私たちの「最も憧れる方」「最も尊敬する方」「最も愛している方」「最も大切な方」になるときに、初めてキリストは私たちの「真似したい方」になります。イエスは、人に仕えることを弟子たちに教えました。イエスとの親しい関係を深めてゆく中で、私たちの仕えたいという思いは強くなっていきます。そうやって、神との愛の交わりのうちに神を追い求めていると、私たちの性質は聖霊によってキリストにふさわしく（似合うように）変えられていきます。もちろん、私たちの最終目的は、キリストを愛することです。でも、その過程の中で、つき従っているお方に似ていくのです。

教会での奉仕をして、やっても満たされなかった経験はありますか？それは、どんな奉仕でしたか？なぜ、あなたはその奉仕を選んだのですか？

---

---

---

---

（上記の答えを踏まえて）もし、あなたがその奉仕を「神を愛したい。神を追い求めたい」という思いでやっていたとしたら、その経験は違ったものになっていたと思いますか？

---

---

---

---

自分の毎日の生活スタイルを考えると、あなたにとってイエスは「かけがえのない、憧れのお方だ」と言えますか？それとも、誰かほかの人を偶像化していますか？もしそうなら、だれを偶像化していて、なぜその人を偶像化しているのですか？

---

---

---

---

祈り・「主イエスさま、あなたを知りたいです。あなたを真似たい、あなたに合わせたいです。どうか私が、人を敬うことはしても、あなたに合わせてあなたを真似るようにしてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・ルカの福音書22章24-27節、ピリピ人への手紙2章1-11節



## 4日目

### 高ぶりに立ち向かう

「『神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与える』・・・主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高く上げてくださいます」－ヤコブの手紙4章6節後半、10節

高ぶりやプライドは、実に理解しがたいです。それが何なのかを定義できないからではありません。その魅力が何なのか分からないからです。なぜ、高ぶりやプライドを手放すのは大変なのでしょう？

高ぶり・プライドほどに、厳しい叱責や非難を受ける罪はありません。同時に、高ぶりほどにクリスチャン生活にまん延する罪もありません。高ぶりは原罪にまでさかのぼり、ルシファー（サタン）の墮落、バベルの塔での言語の分裂、ネブカドネザルの追放、1世紀の人々のキリストの拒絶へと続きます。そして今、私たちが神に頼ることを拒むことへとつながっているのです。高ぶりは、罪の根幹にある問題です。

では、どうすれば高ぶりの問題に（積極的に）取り組んでいけるのでしょうか？

答えは「キリストの模範に従うこと」です。イエスは、御父との親しい交わりを追い求めました。また、しもべの立場に身を置きました（ローマ15章8節）。親しい関係がイエスを御父に頼らせ、仕える姿勢がイエスを謙虚にさせたのです。キリストは「すべての点で兄弟たちと同じように・・・自ら試みを受け」ながらも、生涯、罪を犯しませんでした（ヘブル2章17-18節、4

章15節、マタイ4章)。それは、キリストが神との関係を追い求め、しもべの道を歩んだからです。

私たちが高ぶり・プライドに取り組むときも、そのように対処しなければなりません。まず、神との愛の交わりを追い求めてください。そうやって神を追い求めながら、「しもべになれる場所を示してください」と神に求めてください。神を追い求め、謙虚に人に仕えることで、自分の内にある高ぶりに積極的に立ち向かうのです。

あなたは、人に仕えることに関して、どんな恐れを持っていますか？

---

---

---

---

ほとんどの人が「評価されたい」「感謝されたい」「認められたい」という欲求を持っています。こうした欲求は、しもべの立場では満たされにくいものです。それについて、神はマタイの福音書6章1-4節と25章31-40節で、どう対処しておられますか？

---

---

---

---

今まであなたは、高ぶりの罪にどう対処してきましたか？ それでうまく行っていましたか？

---

---

---

---

私たちが奉仕から遠ざけるのは、高ぶりです。そして、その高ぶりの罪に効く特効薬は、謙虚に仕えることなのです。しもべとして仕える立場に身を置けば、他人を見下すことは難しくなります。

祈り・「主なるイエスさま、あなたを知りたいです。あなたの歩んだ道を、私も歩んで従っていきたいです。私は、聖書の理念にしたがって、へりくだらなければなりません。そのことを、責任をもって真剣に受け止めます。私の内に（自分の好きにやりたい）という思いがあることを、まず告白します。私はあなたを追い求めます。どうか、高ぶりの罪に向き合わせてください。仕える者の立場を求めることができるように助けてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・ローマ人への手紙12章3-8節、ガラテヤ人への手紙6章1-4節



## 5日目

### こんな充実感、初めて

勇気を出して仕えた人は、よく「すごく気分がいい。こんな充実感、初めて。」という反応をします。

でも、なぜ心が満たされるのかまでは考えません。仕えたと充実感があるのは、どうしてなのでしょう？ その答えは、一言で言えば「デザインが充実感・満足度を定めているから」です。デザインとは、特定の目的をもって考案された計画のことです。想像力を働かせて考えてみてください。もし飛行機に感情があるとしたら、地上にジッと座っているときと雲の中を飛んでいるときの、どちらに充実感を持つと思いますか？ もしレーシングカーが感情を持っているとしたら、交通渋滞でジッと止まっているときとサーキット場でレースしているときの、どちらに満足感を感じると思いますか？ もしボートが話せるとしたら、倉庫の乾いた床の上にジッとしているときと波を切って走っているときの、どちらに達成感があると言うでしょう？

飛行機、レーシングカー、ボートなどの無生物のデザインであれば、見るだけで、造られた目的を果たしているかどうかを簡単に見極めることができます。デザインが、達成度や充実度を見極めさせてくれるからです。ところが、どういうわけか人間のことになると、同じロジックが使われないのです。なぜでしょう？ それは、人間のデザインではなく、個人のデザインに気を取られてしまうからです。

画家は、キャンバスに自分の表現を描くときに満足感を感じます。ダンサーは、身体を動かして自分を表現するときに達成感を味わいます。発明家は、

新しいアイデアをあれこれ考えているときに充実感を持ちます。でも、これらはすべて、個人の独自のデザインに焦点を当てています。なので、私たちの人間としてのデザインについて考えてみましょう。神は、だれもが共通して体験する充実感や満足感を人間のうちに備えて、私たちがデザインしたのでしょうか。

その答えはYES！ 神は、神との親しい交わりのために人間を創造し、人に仕えることを命じました。

「実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました」 — エペソ人への手紙2章10節

「わたしは、あなたを胎(たい)内に形造る前からあなたを知り、あなたが母の胎を出る前からあなたを聖別し、国々への預言者と定めていた」 — エレミヤ書1章5節

「神は私たちに救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自分の計画と恵みによるものでした」 — テモテへの手紙第二1章9節

人に仕えたと充実感や達成感を感じるのは、それほど驚くことではありません。満足や充実、神にデザインされたとおりの生き方をしたときの副産物なのです。

あなたは、人生に充実感を感じていますか？ それとも、充実感が無いと悩んでいますか？ もしそうなら、仕えることができる場所や奉仕ができる場所を、いくつか考えて書いてみてください。

---

---

---

---

神のデザインが、私たちの充実度・達成感を決定します。ならば、そのデザインから離れた生き方をすることが、充実・満足の乏(とぼ)しさにつながっているはず。あなたの人生・生活で、神のデザインから離れた生き方をしている部分がありますか？ それがどこか特定できますか？

---

---

---

---

祈り・「主なるイエスさま、あなたを知りたいです。あなたが、関係と奉仕を意図して私をデザインしたのだと、聖書は語ります。充実感がないときは、あなたのデザインに戻るよう私を助けてください。あなたを愛しています。イエスの御名によって祈ります。アーメン」



## 6日目

### キリストを伝える場を築く

「私たちは、あなたがたのことを覚えて祈るとき、あなたがたすべてについて、いつも神に感謝しています。私たちの父である神の御前に、あなたがたの信仰から出た働きと、愛から生まれた労苦、私たちの主イエス・キリストに対する望みに支えられた忍耐を、絶えず思い起こしているからです。・・・主のことばがあなたがたのところから出て、マケドニアとアカイアに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰が、あらゆる場所に伝わっています」 — テサロニケ人への手紙第一章2-3節、8節

人々にキリストを伝えることは、クリスチャンの特権なのでしょうか。それとも、権利なのでしょうか。(訳注:特権は、ある資格・身分の者だけが特別に与えられるもの。権利は、人が本来持っているべきもの。)アメリカ人は、すぐに自分の権利を主張します。我々には言論の自由の権利がある、集まって礼拝する権利がある、平和的な抗議をする権利がある・・・と権利の主張は続きます。権利は、積極的に擁護(ようご)され、守られています。権利が与えられていることは、とても感謝なことです。しかし、その一方で「教会は権利と特権をはき違えているのではないか」という懸念もあるのです。

最近、アメリカで「クリスチャンという言葉聞いて、最初に浮かぶ印象は何ですか?」と尋ねる世論調査が行われました。その結果、最も多かった回答は「批判的」「すぐ咎める・非難する」「偽善的」の三つでした。お世辞にも良い印象とは言えません。要するに「クリスチャンは、自分の行動で語るのではなく権利の主張で語る者たちだ」と、多くの人が思っている(気づいている)ということです。現にアメリカでは、クリスチャンたちが非聖書的

な立場の人たちとのビジネスを拒んだり、命を破壊するからという理由で、中絶クリニックの前で反対デモをしたりします。同性愛者の権利に抗議してデモ行進もします。禁酒郡（アルコール飲料の販売を禁止する行政地区）を増やすように国会に申し立てたり、公立の学校で祈ることを再許可するように要求したりもします。しかし、そういった活動の原動力は、「私たちには語る権利がある。抗議デモする権利、意見を述べる権利がある」という権利の主張です。もちろん、法律的には、その権利をもっています。でも、実質的には、特権を失ってしまっているのではないのでしょうか。

キリストを伝えることは、クリスチャンの特権です。イエスが「聞くこと」を要求したという記録は、聖書のどこにもありません。そんな強制をする必要はなかったからです。イエスは、傷ついた人々を癒しました。そして、そのあとに福音を伝えました。体の不自由な人々に触れ、窮地に追い込まれた人々を助け、そのあとで御国を教えました。つまり、人に仕えるイエスの奉仕が福音の扉を開いたのです。

テサロニケの教会は「信仰から出た働きと、愛から生まれた労苦、イエス・キリストに対する望みに支えられた忍耐」によって知られる教会でした。そんな彼らが、人に仕えて、信仰を働かせて、愛する心で信者と未信者の両者のために労苦して奉仕したからこそ、「主のことばがあなたがたのところから出て・・・あらゆる場所に伝わって」いきました。神のことばは、人に仕える奉仕の結果として栄え、広がっていったのです。（引用聖句・第一テサロニケ1章3、8節）

この5日間で学んだのは、世・人に仕えることが、父なる神に栄光を帰し、神のご計画なのだということ。そして、私たちがキリストのご性質に似る者に変え、高ぶりに立ち向かう場所に自分を置き、人生に充実・満足をもたらす生き方であるということ。今日で世に仕えることについての学びを終わりますが、「私たちの奉仕や働きが、キリストを伝えるチャンスをつくる」という事実を、しっかりと理解する必要があります。私たちが人に仕えるときに、福音を語る機会是与えられるのです。

今週のデボーションの意図を誤解してほしくないので述べておきますが、私は「教会の権利が失われてもよい」と言っているわけではありません。ただ、人に仕えることを介して（使って）語ることを勧めているのです。教会が、私たちが嫌悪感を抱く社会的問題や議論で知られるのではなく、私たちの愛するキリストで知られることを心から祈っています。

あなたは人に「聞くこと」を要求していますか？ それとも、人から「話して欲しい」と頼まれるような証し人ですか？ それはなぜだと思いますか？

---

---

---

---

「人に仕えて、そのあとに語る」というイエスのミニストリーが記録されている聖書箇所を、いくつかあげてください。

---

---

---

---

祈り・「主イエスよ、あなたを知りたいです。そして、人々にあなたの福音を伝えたいです。あなたの生き方を模範にして生きられるよう、どうか私を助けてください。イエスさまの御名によって祈ります。アーメン」





## 1日目

### 委ねるって、なに？

「ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい」 — マタイの福音書28章19-20節

「多くの証人たちの前で私から聞いたことを、ほかの人にも教える力のある信頼できる人たちに委ねなさい」 — テモテへの手紙第二2章2節

今週は「福音を委ねること」に焦点を当てます。この手引書（第三部）に含まれるデボーションの中で、おそらく「福音を委ねること」がもっとも他と異なる概念になるでしょう。なので、この概念を明確にするためにも、まずは最初の数日間でその全体像を描いていきます。

冒頭の聖句は、どちらも「学んだ事をほかの人に伝えていくこと」を求めています。イエスは弟子たちに「あなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい」と言って、弟子をつくることを命じました。つまり、イエスの弟子たちは、自分が学んだ事をほかの人に伝えなければならなかったわけです。テモテも同じです。テモテは、パウロから聞いた事を、ほかの人に告げ知らせるように命じられました。この二つの聖句には、ある真理が隠れています。それは、「伝えた事はすべて人々に影響を与え続けるが、自分の中に留めておいた事は、私たちが死ぬと同時に死んで消えてしまう」ということです。

死が訪れるとき、何もあの世には持っていきません。だれでも、そうだと分かって生きています。私たちは、何も持たずにこの世に産まれて、産まれたときと同じように、何も持たずにこの世を去るのです。したがって、自分だけのものにしてきたもの（例・物、考え、知識、励まし）は、私たちと一緒に死んで、未来に何の影響も及ぼしません。

この未来に及ぼす影響について、よく考えてみてください。そして、あなたが神から学んだ真理を思い出してください。みことば、信仰、親しい関係、神の家族、祈りについて、神はあなたに何を教えてくれましたか？ 神が一生分の真理を私たちに注ぎ込んでくれたのに、その知識をすべて墓に持っていくというのは、理にかなったことでしょうか？ 神は、伝えられた事をほかの人に伝えてほしいのです。神の真理と恵みのパイプ役を担(にな)ってほしいのです。それをしっかりと理解するのが、福音を委ねることの第一歩です。

あなたの人生に時間と真理を注いでくれた人の名前を、何人があげてください。（牧師、教師、指導者、スモールグループのリーダー、信頼できる相談相手、良い友だちのことを思い返してみましよう。）もし彼らが真理を委ねなかったら、あなたは今、霊的にどんな所にいると思いますか？

---

---

---

「成熟したキリスト者が、別の人的人生に時間と真理を委ねている」という関係・交わりの例を、聖書からいくつかあげてください。

---

---

---

祈り・「主なるイエスさま、あなたを知りたいです。そして、ほかの人々にもあなたを知ってほしいです。自分の人生や生活を振り返ると、あなたが私にどれだけ教えてくれたかに気づかされます。あなたが教えてくれた真理を、どうやって周りの人に委ねればよいか分かるように、どうか助けてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・マタイの福音書10章1-16節、使徒の働き1章8節、コリント人への手紙第二5章17-20節



## 2日目

### 福音を委ねる

「福音」は、良い知らせ・グッドニュースという意味の言葉です。聖書が福音を語る時、それは神の良い知らせを指しています。神の良い知らせは、単なる「救い（永遠のいのち）への招待」ではありません。そうやって救われて神と和解したあとに、その人がどう生きるべきなのか、その「生き方への招き」でもあります。

イエスが地上でのミニストリー・宣教を始めたとき、「ガリラヤ全域を巡って会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え[た]」と聖書は言っています（マタイ4章23節、9章35節、24章14節、マルコ1章14節）。これが、新約聖書で初めて「福音」という言葉が出てきた箇所です。具体的には「御国（みくに）（神の国）の福音」を指しています。実際、新約聖書では、御国の福音という表現がよく使われています（マタイ9章35節、24章14節、ルカ16章16節）。つまり福音は、神の国についての良い知らせなのです。

では、御国（神の国）について少し考えてみましょう。御国とは何でしょう？

御国とは、神の望むことが成される場所、神の意志が効力を発揮する領域のことです。神はすべてを創造した創造主ですが、ご自分の国をご自分の民の只中（ただなか）に確立することを選ばれました。神の民が行くところに、神の権威も働くのです。そうやって神がご自分の民を通して生きて働くときに、神の影響力和御国は広がって行くのです。

イエスの教えとイエスの弟子訓練も、神の国が焦点になっています。

- イエスは、御国の福音を説きました。(マタイ4章23節、9章35節、24章14節、マルコ1章14節)
- 山上の垂訓(マタイ5-7章)は「神の国の憲法」と呼ばれています。
- マタイの福音書13章で、イエスは七つのたとえ話を語っています。それらすべての焦点は御国です。

どうして御国についての話は、そんなにも重要なのでしょうか？ それは福音が「イエスは救う」だけにとどまらない、それほど素晴らしいグッド・ニュースだからです。キリストとバプテスマのヨハネが説いた福音は「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」というものでした。つまり、イエスとヨハネは御国の福音を宣伝したのです。その御国の福音は、神が関係の回復(和解)を提供するという良い知らせです。また、その和解による新しい関係が、神の国のうちに実現するという良い知らせなのです。

クリスチャンが福音の全貌(福音の広さ、深さ、及ぶ範囲)を理解するとき、すべてが変わります。私たちの優先順位もフォーカスも世界観も変わります。お金の使い方も祈り方も人との接し方も変わります。滅びに向かう人々への訴えも人生の目的や目標も、そしてその目的・目標の追い求め方さえも、全部すべてが変わります。それはつまり、御国こそが私たちのクリスチャン生活とクリスチャン人生の環境・意味・中身・観点を提供するということです。

福音を委ねるとは、この御国の福音を委ねることなのです。

神があなたに与えてくださった真理は、何について(人生・生活のどの場所・側面において)の真理ですか？ リストにしてください(例・結婚生活、バイブルスタディ、祈り、信仰、家計や資金管理、子ども・子育て)。神があなたに委ねたこれらの真理を、どこで(誰に)委ねることができますか？

---

---

---

---

祈り・「主イエスよ、あなたを知りたいです。あなたは私に御国を知ってほしいのだと、聖書を見ると分かります。どうか私の目を開いて、福音の全貌と福音の及ぶ範囲・規模の大きさを見せてください。そして私が、学んだ事をほかの人々に委ねることができるように助けてください。私を愛して下さっていることを、心から感謝します。イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・イザヤ書9章1-7節、エレミヤ書31章31-34節、マタイ5-7章、ガラテヤ人への手紙2章7節、テサロニケ人への手紙第一2章4節



## 3日目

# 人間関係のルール

あなたは（福音を委ねるのは大仕事だ）と思っていませんか？福音を委ねると聞いて、たいてい真っ先に浮かんでくるのは、どのように伝えるかではなく何を伝えるかについての不安や心配です。その何をに関しては、昨日、定義をしました。私たちは、神の国についての良い知らせを伝えるのです。そこで今日は、どのように伝えるのかを定義します。一言で言うと、人とのつながりのネットワークを通して、御国の福音を伝えるのです。

「すべては人間関係のルールの上を走る」と言われています。要するに、なにごとにも人とのつながりのおかげでうまく行く、と言っているわけです。福音を委ねることも、その実例です。もちろん、まったく面識のない人に、福音を語る機会が与えられることもあります。でも、人間関係のネットワークの中で福音を委ねることの方が、ずっと多いのです。つながりのネットワークは、友人、家族、職場の同僚、隣人やご近所の人など、日頃からよく会っている人たちから成っています。そういうネットワークは、すでに知り合い・付き合いという人間関係の基盤ができていますので、福音を委ねるのに適した土地（肥えた土壌）なのです。

福音が、人間関係ネットワークのルールの上を走って前進するには、いくつか理由があります。

1. 福音の本質は関係：御国の福音には、重要な三つの関係が関わっています。神との関係、教会との関係、そして世との関係です。
2. 福音を伝えるには時間がかかる もちろん、伝える内容によっては、チラシやレストランのナプキンの裏にササッと書くだけで十分なときもあります。でも神の国は、それで説明できるようなものではありません。御国の福音を伝えるには、もっと時間がかかります。すでに築かれた関係がある相手なら、会話を続けるチャンスはたくさんあるはずですよ。
3. 福音メッセージの成果は、変えられた人生 見ず知らずの人に「神が私の人生を変えてくれた」と話しても、その人が見ているのは目の前のあなただけです。ところが、あなたのネットワークにいる人たちは、あなたの人生が神によって変えられていく様子を、ずっと見ています。そのあなたの変化が、福音を伝えるチャンスを提供してくれます。

新約聖書を読むと、神の国の福音は「人間関係を通して委ねられる」ということが分かります。そして、私たちの人生でも、福音が同じようにして委ねられることを神は望んでいるのです。次の聖書箇所を読んで、それぞれ適切な答えを書いてください。

### マルコの福音書3章13-19節

福音を委ねたのはだれ？ \_\_\_\_\_

福音を受け取ったのはだれ？ \_\_\_\_\_

### マルコの福音書5章1-20節

（18-20節の、悪霊につかれていた人に注目。）

福音を委ねたのはだれ？ \_\_\_\_\_

福音を受け取ったのはだれ？ \_\_\_\_\_

### ヨハネの福音書1章40-42節

福音を委ねたのはだれ？ \_\_\_\_\_

福音を受け取ったのはだれ？ \_\_\_\_\_

ヨハネの福音書4章7-42節（キリストのメッセージに対する、この女性の反応に注目。特に28-30節と39-43節。）

福音を委ねたのはだれ？ \_\_\_\_\_

福音を受け取ったのはだれ？ \_\_\_\_\_

テモテへの手紙第二章2節

福音を委ねたのはだれ？

福音を受け取ったのはだれ？ \_\_\_\_\_

祈り・「主なるイエスさま、あなたを知りたいです。どうか、私自身が持っている人間関係のネットワークに気づかせてください。福音の前進のために、あなたが私を通して生きて働いてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・ルカの福音書5章27-32節、使徒の働き10章、16章22-33節



## 4日目

### 福音を委ねる簡単な方法

「兄弟たち。私があなたがたのところに行ったとき、私は、すぐれたことばや知恵を用いて神の奥義を宣べ伝えることはしませんでした。なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリストのほかには、何も知るまいと決心していたからです。あなたがたのところに行ったときの私は、弱く、恐れおののいていました。そして、私のことばと私の宣教は、説得力のある知恵のことばによるものではなく、御霊と御力の現れによるものでした。それは、あなたがたの信仰が、人間の知恵によらず、神の力によるものとなるためだったのです」—コリント人への手紙第一2章1-5節

ここまでの三日間で、三つの主要要素が揃いました。

1. ミッションは、福音を委ねること 福音が委ねられていけば、弟子はつぐられ、大宣教命令は成就されていきます。
2. メッセージは、御国の福音 もし福音の贖(あがな)いに関する部分だけを伝えれば、それは単にキリストを信じる決断をさせているだけで、弟子をつくったことにはなりません。福音を委ねるとは、神の国についての良い知らせを伝えることです。
3. 宣教の地は、主に人間関係のネットワーク 見知らぬ人に福音を委ねることもできますが、新約聖書が示す基本的なパターンは、人とのネットワークを通して実践される宣教です。

あなたが私と同じなら、次に「どうやればいいのか？」という疑問が浮ぶはず  
です。世界は広いし、メッセージは深いし、時間は短い……。具体的には、  
どうやって実践すればよいのでしょうか？

答えは簡単です。使徒パウロの手本に従えばよいのです。パウロは、コリ  
ントのクリスチャンたちに「キリスト、しかも十字架につけられたキリスト」  
に集中した教えをしました。これは、パウロが神の国に関する多くの教えを  
省いたように見えるかもしれませんが。信仰についての教えは？ 愛について  
は？ 霊的賜物は？ 奉仕は？ 宣教は？ 祈りや賛美は？（たった一つ  
のことだけを伝えるなんて、なぜパウロはそんな狭い視野の教えをしたの  
か？）と疑問に思う人がいるかもしれません。

その疑問の答えは、キリストと御国の関係性にあります。私たちがキリスト  
を追い求めて、キリストを知ることには集中していると、そのキリストが私たち  
を信仰、希望、愛、ミッション、ミニストリー、祈り、賛美に導いてくれます。  
ゆえに、信仰生活のベテランでなくても、福音を委ねることはできるのです。  
現に、注意を怠っていると、知的には優れていても霊性には欠けている者にな  
ってしまいます。でも、安心してください。神の国についての具体的な詳細は、  
国王なる神を追い求めていけば分かってきます。それはなぜか。神の  
国には、王の御心が反映されているからです！

この事実は、私たちにとって何を意味するのでしょうか？ それは、主なるキリ  
ストを追い求め、主から学んだ事を人々に伝えることが、私たちの役割・任  
務だということです。今、あなたが信仰を試されているなら、主を信頼するこ  
とや忍耐することを学ばされているのなら、神が教えてくださっているその  
事をだれかにシェアすればよいのです。キリストに従う中で、お金の使い方  
について学ばされているのなら、学んだ事を周りの人に委ねてください。祈  
りの仕方について教えられているのなら、それを友だちや家族や人間関係ネ  
ットワーク内の人々に話してください。神は「福音を委ねる前に、キリスト  
教の学位を取れ」などとは言いません。神を追い求めてほしい、そして、そ  
うして追い求めながら学んだ事をほかの人に伝えてほしい、ただそれだけ  
なのです。

コリント人への手紙第一2章1-5節を読んで、パウロの心の状態を表してい  
る言葉をいくつか書き出してみましょう。パウロは、恐れを知らないリーダ  
ーですか？ それとも、普通の人のようですか？

---

---

---

---

祈り・「主イエスよ、あなたを知りたいです。あなたを知っていきながら、学  
んだ事をほかの人々に伝えることができるように、勇気をください。イエス  
さまの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・ヨハネの福音書15章1-8節、17章3節、コリント人  
への手紙第一1章17-31節



## 5日目

# 福音の前進

「さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったことを知ってほしいのです」—ピリピ人への手紙1章12節

私は子どもの頃、宣教師が教会にくる日曜日が嫌いでした。（なんて悪い子!）と思うかもしれませんが、それが正直な気持ちでした。宣教師や宣教の働きが嫌いだったわけではありません。神が私に「同じ事をしなさい」と言っているようで、それがイヤだったのです。

実際、宣教師たちはいつも、福音のためにさまざまな試練に耐えた話を語りました。それがアフリカでもインドでも南米でも南極でも、宣教の場所には関係ありませんでした。ある宣教師は、何か月も米と水だけで生活したと言いました。別の宣教師は、めずらしい病気との戦いや、魔術のパワーに対抗した体験を語りました。ほかの宣教師は、長い間、同じ民族に仕えてきたが、少しの成果しか見えないと話しました。幼かった私は、こうした宣教師の話に一つの類似点を見つけました。それは、苦しみです!

私は苦しみが好きではありません。むしろ、できる限り避けたいです。ところが、困難を通して福音が大きく前進することが、実際にあるのです。私たちが本気で福音を委ねる者になりたいのなら、「福音の前進のために、どれだけ耐える意志・覚悟があるか」という問いに答えなければなりません。

その答えは、人によって違ってくるでしょう。イエスは、十字架を耐え忍びました（ヘブル12章1-3節）。パウロは、牢獄とむち打ち、そして最終的には死を耐え忍びました（第二コリント11章23-28節）。しかし、これらは

極端な例です。日本やアメリカに住むクリスチャンが、そんな苦しみを通ることはないでしょう。それでも、家族との間に距離ができる、収入が減る、落胆を経験することはあるでしょう。そのほかにも大小さまざまな問題や悪魔・悪霊からの攻撃、些細(ささい)な不都合や不便などを耐え忍ぶことは、珍しくないはずで

私の言いたい事は、いたってシンプル。サタンは、福音の前進に抵抗します。でも、パウロを見ても分かるように、彼がおかれた状況（牢獄、試練、むち打ちなど）は、かえって福音の前進に役立ちました。もし、パウロが試練を耐え忍んでいなかったら、福音が遠くに広まることはなかったでしょう。

たとえ、パウロのような苦難に召されることはなくても、あなたの人生・生活の中でも小さな問題や試練は起こります。それらの問題や試練が、福音が前進するチャンスを与えてくれます。そして、問題・試練の中でどんな振り舞いをするかで、福音がどこまで広がるかが決まることも多々あります。あなたが直面する試練や状況すべてにおいて、世の人たちはあなたを観ています。それを忘れないでください。神はご自分の栄光のために、あなたを最適な場所、絶好の場所に置かれているのです!

周りの人たちは、あなたが試練や生活のプレッシャーにどう対処するかを観ています。あなたの内に彼らが見るものは、神の働きを後押ししていると思いますか? それとも、かえってダメージ・害を与えていると思いますか? あなたがどんな対処をすれば、周りの人はキリストにつながるようになる、キリストをあがめるようになると思いますか?

---

---

---

---

---

あなたの知っている人で、困難や試練の中でも、大きな勇気とキリストへの信頼を持ち続けたという人の名前をあげてください。その人は、あなたにどんな影響を与えましたか?

---

---

---

---

---

祈り・「主なるイエスさま、あなたを知りたいです。福音の前進のために、あなたは私の人生に試練を許されると知りました。どうか私の人生が人々をあなたに導くように、そんな生き方ができるように助けてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・ルカの福音書21章12-19節、使徒の働き4章1-31節、8章1-4節



## 6日目

### ダッシュで何をする？

「私は福音のためにあらゆることをしています。私も福音の恵みをともに受ける者となるためです」 — コリント人への手紙第一9章23節

ある親子の話です。墓地を歩いているとき、父親が息子に向かって「墓地には秘密があるんだよ」と言いました。息子は、そのミステリアスな言葉に興味をそそられ、父親の話に耳を傾けました。「墓地の秘密は、すべての墓石に刻まれているダッシュ記号（一）にあるんだ。ほら、見てごらん。生まれた日付と亡くなった日付のあいだに、横棒が刻まれているだろう？ このダッシュが、その人の人生を表しているんだよ。人間の一生は、基本的にはみんな同じだ。僕らは生まれて、生きて、そして死ぬ。だけど、ただ単に生きた人と何かを後世に残した人との違いは、このダッシュで何をしたか、なんだ」

あなたはダッシュで何をしますか？ パウロは「福音のためにあらゆることをしています」と言いました。パウロの人生を思い返すと、そこには山あり谷あり、試練も勝利もあり、苦しみも活躍もありました。でも、パウロの記憶に存在しなかったもの、それは後悔です。パウロはこう言っています。「私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のを走り終え、信仰を守り通しました」（テモテへの手紙第二4章7節）、と。

パウロの人生に後悔がなかったのは、間違いなく、彼が福音のためにあらゆることをしたことと関係しています。パウロは、自分のダッシュを最大限に活用したのです。聖書の登場人物で「この地上において、神に命じられたすべての事を成し遂げた」と言えるのは二人だけです。一人はイエス、も

う一人はパウロです（ヨハネ19章30節、第二テモテ4章7節、ヘブル10章11-12節）。あなたは、どう生きて、どう人生を終えたいですか？

キリストは弟子たちに、あらゆる国の人を弟子にする任務を与えています（マタイ28章19節）。つまり、私たち全員が、同じ使命と同じ目的を持っているわけです。私たちのだれもが、身分や地位に関係なく、福音を委ねなければいけません。キリストがご自分の命を捧げたのは、私たちが福音を得るためです。パウロが人生を捧げたのも、福音のためです。その福音を受けたあなたは、神に与えられた命と人生を、どう使いますか？

天の父よ、深い決意を与えたまえ。喜びの時も悲しみの時も、あなたの御言を守るため。私の日々の生活が、御心にかなうように。どんな苦勞の中でも、誠実に心から。一つしかない人生、やがて過ぎ去る。キリストのためになされたことだけが残る。（世界福音伝道団設立者・イギリス人宣教師チャールズ・トーマス・スタッド）

キリストに従う者には、この世で最も尊くて偉大な働きに人生を費やすことができる、という特権が与えられています。私たちは神を知ることができます。神を人々に知らせることができます。聖書が示す「神を知って弟子をつくる」というプロセスは、至ってシンプルです。ただ、神を愛し、信仰の兄弟姉妹とつながり、世に仕え、福音を委ねる。それだけなのです。

あなたが後世に残したいことは何ですか？ 一文にしたためてください。

---

---

---

---

どうすれば、あなたの人生をもっと福音を委ねることに使えると思いますか？

---

---

---

---

祈り・「主なるイエスさま、あなたを知りたいです。あなたが私をこの地上に置いた目的のすべてを、私がしっかり果たすことができるように、あなたが私を通して生きて働いてください。あなたを知ること、そして、人々があなたとの関係を始めて成長するのを助けることで、私は後世に遺産を残したいです。イエスの御名によって祈ります。アーメン」

その他の聖書箇所・マルコの福音書1章32-39節、コリント人への手紙第一9章13-27節



THIS IS THE  
GOSPEL

[ThisIsTheGospel.com](http://ThisIsTheGospel.com)